

目指す学校像	笑顔あふれ、規律ある学校 磨き合い・学び合い・高め合える学校 組織力を十分に発揮できる学校
--------	---

重点目標	1 主体的に考え、行動し、豊かに交流できる児童をはぐくむ教育活動の推進 2 他者と豊かにかかわり、節度ある児童の育成と安心・安全な教育環境づくり 3 保護者、地域との連携強化による、信頼される学校づくりと愛校心の醸成 4 学校力を向上させ、教職員の誰もが働きがいを感じる学校づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和5年2月14日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数共に全国、市平均と比べ良好な結果である。また、単元ごとに実施しているワークテスト等の評価テストの結果も90%程度の高い達成率を示している。 ○自分たちで、課題を見出し、それをICT等の多彩なツールで解決しようとする態度と能力が萌芽し始めている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の分析から、苦手な問題や難しい問題にぶつかると、問題に取り組む前にあきらめてしまう傾向が若干見られる。 ○児童アンケートによるICTの活用状況が学年・学級差がある。故障機の対応により、1年生のタブレット端末が十分に確保できていない。	○学びの自立と個別最適化、探求化を可能にするICTの効果的な活用 ○児童が、自ら学習課題を設定する主体的な学びの推進 ○SSSPを最大限活用した授業改善の推進 ○防災教育の深化	①全国学力・学習状況調査の振り返りや単元ごとのワークテスト等を通して、自らの学習課題を見出し、解決策を探れるよう学びの自立化を図る。 ②引き続き、各教科の授業でデジタルの優位性を存分に生かせるような授業実践にチャレンジし、個別最適で探求化な学びの在り方について探っていく。 ①「スクールラッシュボード」の日常的な活用により、児童の実態に応じた学びを確立できるようOJTを中心とした恒常的な研修体制を確立する。 ②校内のGIGA部を充実させ、授業活用と環境整備を両輪として推進できるようにする。 ③実践的な防災教育の推進	①児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、自分に合った目標を立て、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。 ②学校自己評価において、主体的な学びに関連する項目において、85%以上の児童が肯定的な回答をしたか。 ①「スクールラッシュボード」の活用方法について、教職員で理解し、各学年の授業で反映できるようになっているか。 ②ICTの活用に関する児童アンケートの結果が、全学級で市平均を上回ることができたか。					
2	(現状) ○不登校傾向の児童が複数名在籍している。必要に応じて、専門機関や学校の専門職とのつながりを持ち、対応している。 ○心と生活のアンケートや児童理解研修等を活用し、児童の不安や児童間のトラブル等の生徒指導案件には、迅速な組織対応をしている。 ○報告・連絡・相談・見届けを徹底させている。 (課題) ○老木の倒壊危機、敷地が二分されていることにより生じてしまう死角の危機。 ○首都直下型地震に対する備えを保護者・地域と一体となって理解し、整備を進める。	○児童一人ひとりが肯定的な人間関係を構築し、豊かな学校生活を送れるよう保護者と連携した生徒指導・教育相談体制の更なる充実 ○安全・安心で美しい教育環境の整備 ○実践的な防災教育の推進	①欠席状況や教室の様子を丁寧に観察し、気になる児童については、SCやSSWを含め組織的に対応し、必要に応じて関係機関とつなぐ。 ②新設した教育計画推進部を中心に生徒指導、教育相談体制を更に充実させる。 ①日々の点検で危険箇所を早期に見出し安全措置を速やかに行う。 ②保護者・地域と連携した防災教育、防災体制を計画的に進める。	①年間30日以上欠席している児童が、前年度に比べ15%以上削減することができたか。 ②学校評価において、「学校が楽しい」と肯定的な回答をした児童が90%以上にすることができたか。 ①危険箇所を処理することができたか、または関係機関に報告できたか。 ②より実践的な避難訓練を実施し、保護者・地域と協議することができたか。					
3	(現状) ○学校運営協議会、PTA本部会・運営委員会、本太スクールネットワーク、SSN、社会福祉協議会、青少年育成本太小地区会、本太公民館運営協議会などを通して、重厚なスクール・コミュニティが形成されている。 (課題) ○学校運営協議会をはじめとする既存のネットワークを更に深化・充実させ、教育活動の充実を図る。 ○首都圏直下型の大地震に備え、学校・家庭・地域が連携した防災体制の整備。	○学校、地域、家庭の持続可能な連携・協働体制を深化・充実させる。 ○学校運営協議会等における熟議の充実 ○防災に対する熟議の実施	①積極的に学校教育に関する情報を発信し教育活動に対する理解を深めていただき、学校・家庭・地域の連携をより強化なものとする。 ②学校行事への参加招聘、保護者・地域行事への積極的な参加。 ①実践的な引き渡し訓練を実施し、その様子について、学校・保護者・地域で熟議し、首都直下型の地震への備えを充実させる。	①ブログによる校長通信「教育は愛」を継続更新できたか。 ②地域と連携した行事への参加を90%以上行うとともに、本校の学校行事への招聘活動を学期に1回以上できたか。 ①学校運営協議会を年3回、着実に実施することができたか。 ②実践的な引き渡し訓練を実施し、保護者・地域の方と熟議することができたか。					
4	(現状) ○研究熱心で教育に対する情熱を持つ教員が多く、本年度より新たな手法による学校課題研修に取り組もうとしている。 ○校長の学校経営方針を踏まえ、学年主任を中心に、主体的な学年運営がされている。 (課題) ○教職経験が浅い若手教員を各学年に配置しているため、児童・保護者のニーズに応える授業力の向上を図らなくてはならない。 ○仕事のストレス判定図を見ると仕事の量的負荷尺度が全国平均を上回っている。	○学校経営方針を踏まえながら、各学年主任や各主任が創意工夫する楽しさの実感 ○教職員の明るく肯定的な人間関係の構築による働き方改革の推進	①校内研修では「研究は個業」という理念のもと、教員の個別最適化を図り、キャリアと得意な領域を選び取り組めるようにする。 ②OJTを活性化させ、経験の浅い教師の授業力向上を支援する。 ③学年主任のマネジメント裁量を拡大し、失敗を恐れず、創意工夫とチャレンジ精神を持って教育活動を推進し、仕事のコントロール尺度をさらに大きくして、働き方改革を推進する。	①教員のキャリアや特性を生かした本校独自の校内研修スタイルに取り組むことができたか。 ②学校評価における「授業の工夫改善」の項目において、肯定的な回答が80%以上になったか。 ③仕事のストレス判定図による総合した健康リスクの値が男性59未満、女性55未満になったか。					